

2026年
2月発行

第36号 宝同協だより

め ぼ 芽 生 え



編集発行：宝塚市人権・同和教育協議会

〒665-8665 宝塚市東洋町1番1号(宝塚市教育委員会事務局 学校教育課内) TEL: 0797-77-2040/FAX: 0797-71-1891

2025年度 ハーとん じんけん作品賞 入賞者のお知らせ

【ポスターの部】

○最優秀賞(3点)



春田 渚帆さん(山手台小 3年)



内堀 仁香さん(すみれガ丘小 6年)



佐野 心悠さん(安倉中 3年)

○優 秀 賞(6点)

仲村 祉菜さん(長尾台小 2年)・大井津 咲良さん(末広小 2年)・安永 ゆいさん(丸橋小 6年)
渡邊 風香さん(長尾小 4年)・間野 悠万さん(高司中 2年)・平田 樹さん(長尾中 3年)

【標語の部】

○最優秀賞(4点)

木村 小夏さん(長尾台小 3年)
三谷 紗雪さん(宝塚第一小 6年)

「きみがいる だからわたしも かがやける」
「空気よみ 周りと一緒に 笑うより
まずは自分の 心にきいて」

原 蒼二郎さん(南ひばりガ丘中 3年)
草野 喜久代さん(市民)

「匿名で 書かれる重さと 書く軽さ」
「ゆるし合う 心を開く 愛の花」

○優 秀 賞(8点)

谷口 加純さん(宝塚第一小 3年)・今崎 奏音さん(美座小 3年)・松井 航生さん(雲雀丘学園小 5年)
後中 賜音さん(雲雀丘学園小 6年)・川上 空愛さん(南ひばりガ丘中 3年)
細尾 菜々子さん(光ガ丘中 2年)・藤本 和子さん(市民)・堀場 亮輔さん(市民)

【作文の部】

○最優秀賞(3点)

垣内 裕太朗さん(小浜小 3年)
中川 聡香さん(宝塚市内小 5年)
野原 礼慈さん(安倉中 3年)

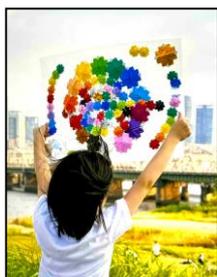
「みんなちがってみんないい」
「『ひらがなにつき』と識字学級」
「弟からのメッセージ」

○優 秀 賞(6点)

前田 真衣香さん(宝塚第一小 3年)・鎌田 祈穂さん(良元小 3年)
戸梶 晴翔さん(すみれガ丘小 6年)・荻野 心花さん(宝塚小 6年)
エチャー・アーネストさん(光ガ丘中 1年)・松田 円花さん(南ひばりガ丘中 1年)

【写真の部】

○最優秀賞(1点)



心山 紬さん(雲雀丘学園小 3年) 「四葉にひろがる幸せの色」

※ 最優秀賞・優秀賞受賞者のみを掲載しています。
※ 佳作を含めた全受賞者名やポスター、写真、
標語の受賞作品は、宝同協のホームページにて
ご覧いただけます。

○優 秀 賞(2点)

篠崎 由奈さん(御殿山中 2年) 後中 賜音さん(雲雀丘学園小 6年)



2025年度 ハーとん じんけん作品賞(作文の部)入賞作品の紹介

【最優秀作文】

『ひらがなごっこ』と識字学級

宝塚市内小学校五年 中川 聡香なかがわ さとが

図書館で『ひらがなごっこ』という絵本を見つけた。小さい時にこの絵本の絵をかいている人の絵本をよく読んだなあとなつかしく思い、また、絵がほっこりしてかわいいののでべらべらとめくってみることにした。

『ひらがなごっこ』は表紙にはおばあちゃんの絵がかいてあるけど、小さな子どもが日記を書くお話かなと思って読み始めた。でも最初の日記に「きょうは わたしのおたんじょうびです。66さいになりました。」とひらがなで書いてあってびっくりした。最初ははらはらっと読んだ。どのページも気になることが書いてあるけど、意味がよく分からなかった。ので、何度も何度も読み直した。そして、「絵本にそえて」も読んだ。「絵本にそえて」には「識字学級」という言葉が出てきた。わたしは、「あっ。」と思った。私がよく行く公共施設の階だんおどりの場の手作りのカレンダーに書いてある字、「識字」。私はこの「識字」の意味が分からなくて母に「ごっごという意味？」と聞いてみたことがあった。私の中の回路がつながった。それから、また、何度も絵本と「絵本にそえて」を読んだ。内容がゆっくりと頭に入っていく、じんわりと心にもしみわたっていく感じがした。

私は六才になったら小学校に行くのは当たり前で、字や算数を習うのは当然のことだと思っていた。宿題の漢字ドリルも計算ドリルもめんどうくさい。「勉強なんかなかったらええの。」と毎日思う。正直、「学校なんかなかったらいいの。」と思う日もある。

この本を読んで、読み書きや計算、学校に行く、私にとっては当たり前だが、当たり前ではないことが分かった。主人公のおばあちゃんは差別と貧困のために子どもたちに学ぶ機会をえられなかった。読み書き計算ができない不便さ、くやしき、情けなさは私が今まで経験も想像もしたことのない感情だ。



識字学級で字を勉強したら、その字が逃げないように手に書いて、にぎりしめて家に持って帰ったり、病院で自分が書いた名前を読んでもらったときに喜んだり、駅で落書きを見てびっくりして、はらが立って、なみだが出たおばあちゃん。「だいじな かわいい じ じこて ひとの わるくち かいて」私は「字」を大切に思うおばあちゃんの感性に感動した。

おばあちゃんの日記は、少しずつ漢字がふえていく。「絵本にそえて」からも字を書きたいと思うおばあちゃんの意欲が伝わってきた。文字で文章を書きたいという気持ちもいたいほど伝わってきて胸が熱くなった。

私がよく行く公共施設にも「識字学級」がある。識字学級とは、「差別によって字を学ぶ機会をうばわれたり、様々な事情で文字が書けない人たちのための教室」だそうだ。「うばう」という言葉の意味。それは、「力づくで取り上げる」と「学ぶ機会をうばわれる」ことであり、とても悲しいことだ。

遠い遠い国の人や昔の人ではなく、私がよく行く公共施設に、今もこの「うばわれた機会」をとりもどそうとがんばっている人がいることにじーんときた。おどりの場にはってある作品はきつとうばわれた文字を取りもどした成果の一部だろう。そし、世界には、今戦争などによって「学ぶ機会」をうばわれている子どもがたくさんいる。

漢字ドリルも計算ドリルもめんどうくさい。夏休みには、作文の宿題もあって本当に嫌になる。でも、私はこの絵本に出会って少し考え直すようになった。私は毎日学校に行けて勉強をすることが出来る。そして、習った字で作文も書いて、自分の考えたことを人に伝えることができる。これから、私は、子どもや人の「学ぶ機会」をうばわない世界にするためにはどうしたらいいのか考えていきたいと思う。



第15回 宝同協研究大会「人権交流学びのつどい」と分科会の紹介(参加者の感想文より)

【吉野】



ルンビニ学園幼稚園コーラス部

1月24日(土)に開催された研究大会には、139名の参加がありました。全体会のオープニングでは、ルンビニ学園幼稚園コーラス部さんによるコーラスが行われ、その後6つの分科会に分かれて交流会が開催されました。分科会は、報告者の実体験や実践を聞き、参加者による意見交流が行われる形式です。以下に、分科会ごとの参加者アンケートの回答の一部を紹介します。〈アンケート回答者：123名〉

① 子どもの人権を考えよう



報告者の方のお子さんに対しての接し方がすごく素敵だなと思いました。きっとお母さんの声かけによってたくさん救われているところがあるんじゃないかと思います。発達障害の子どもへの関わり方について参考になりました。子ども同士のトラブルを親としてどう関わり、声かけをしていくことが大切かを学ばせていただきました。

② 部落差別について考えよう



講演(報告者の内容)がとても良く、胸を打つ内容でした。差別をなくすには、第三者が声をあげることが大切という考えにとっても心が動きました。そのためにこれから自分の学ぶ機会を増やし、正しい知識を周りの方や子どもたちに伝えていきたいと思いました。現職の先生方がしっかりと意識をもって人権教育にかかわっておられるので、明るい未来が見えました。

③ 障がいのある人たちと共に



報告者の方の魅力と努力がとても素晴らしいと感じました。周りの人の理解ある環境作りが障がい者の生きづらさの軽減や二次障がいを防ぐことにつながるということがわかりました。当事者として話されることはとても勇気がいったと思います。だれもが生きやすい社会になるためにも私たちは学ばなければならないと思いました。お話を聞いて、勇気づけられました。

④ 外国人の人権を考えよう



外国にルーツがあるから等ではなく、同じ人間としてお互いを思って歩み寄る心がとても大切だと改めて実感しました。報告者の人柄がとても素敵で、もっと自らさまざまな方と関わるべきだと自分をふり返るととても良いきっかけをいただきました。具体的な意見を述べ合い、お互いを理解して尊重することの温かさを感じる事ができる分科会となりました。

⑤ 若者(高校生)の生き方



報告者の話を聞き、皆さんと交流することで、自分らしさについて考える良い機会になりました。仕事するとき、家族といるとき、友達といるときなど、それぞれ異なる自分なのかもしれませんが、それも理解しながら、自分らしさというのを大切にしていきたいと思いました。今回のテーマである「自分が自分らしくあるために！」これからは自分をたくさん褒めていきたいです。

⑥ 人権教育の今を見つめ、これからの考える



人権教育の現状を見直すために、それぞれの学校の話聞かせていただきました。同じような悩みを持っていたり、新しい気づきがあり良かったです。多くの先生方から子どもたちの心に残る人権学習を行いたいという熱い思いが伝わってきました。その実現のために学校だけで取り組むのではなく、地域・当事者の方にも協力をさせていただく必要があると感じました。

連載 夢と希望はどこに？

③1 東京電力福島原発

阪神淡路大震災の追悼記念日の前日、福島に向かいました。あの痛ましい地震と津波の復興状況と、原発の廃炉状況をこの目で確かめたいためです。阪神淡路の時は実体験と地震後の凄まじい被害状況をまのあたりにしたのですが、東日本大震災はテレビの実況映像から押し寄せる津波と住民たちの悲痛な声を、また、東電の原発の建屋の水素爆発によって崩れる姿を見せつけられました。

今、バスで浪江町、双葉町、大熊町、富岡町と聞きなれた町を走ると、あちこちに放射線量を測る機器が0.08シーベルトなどと示され、バスが走る道路のすぐそばの帰還困難地域には張り紙がありロープでくざられています。原発見学には、本人確認など厳重なチェックを受けたのち、廃炉資料館から見学バスに乗り換え、敷地内の処理水の貯蔵タンクなどを見学し、廃炉途中の建屋1〜4号機が視野に入る場所で現状の説明を受けました。建屋は想像していた以上に大きく見え、今も放射能が高い中で作業が過酷であり、3〜40年かけての廃炉工程に驚きを新たにしました。語り部さんの声が耳にいつまでも残ります。

ふるさと 叫んでも
届かない
泣いても もがいても
戻れない
ふるさとは
遠く 遠のいて
余りにも 遠い

近いけど 遠いふるさと
あのふるさとは
うつくしい海辺
心の底の
涙の湖にある

佐藤紫華子
「原発難民の詩」

【和久】

Ha-ton-zu 「道の駅」 (ハートズ)

- オバン 「あんたたち、これからの人生に夢があるのかい」
- オトン 「定年退職したら、二人で旅行するのが夢だ」
- オカン 「二人って私のことだよ」
- ニ一 「どこへ行くの」
- オトン 「最近、はやりの『道の駅』巡りだよ」
- オカン 「車内で寝ると安上がりだもんね」
- ネ一 「私は温泉付きホテルがいいなあ」
- オバン 「私はやっぱり畳のある旅館がいいなあ」
- ボク 「ボクは子どもの『道の駅』作ってほしいなあ」
- オジン 「それ、どんな駅？」
- ボク 「下校帰りに立ちよって、タダでおやつ食べたり、パソコン室でゲーム遊びができる駅だよ」
- オカン 「勉強もでしょう」
- ボク 「夢だから、それはなし！」

【和久】

芽生えパズル

- たて・よこのマス目に下の文字をうまくあてはめます。
- 太いマス目に入った文字を並べ替えてある言葉にします。(答えは下にあります。)

3字 えがお けんり
4字 せいべつ つながり たのしい ちきゅう
5字 おもいやり
8字 じんけんのれきし へいわがくしゅう よりよいしゃがい

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

【松延】

学校の様子



安倉中学校

安倉中学校3年生が地域の保育園でふれあい体験を行いました。最初は緊張していましたが、子どもたちの明るい笑顔や元気な声に迎えられ、すぐに打ち解けることができました。

【濱崎】

編集後記

今回の「芽生え」では、「ハーとん じんけん作品賞」と「人権交流学びのつどい」について掲載しています。周りの人の日常生活での体験や思いを知ることは、色々な人権問題を見つめ、考えを深める機会となり、お互いが幸せに生きるためにはどうすればよいかを考える機会になると考えています。今回の「芽生え」も、みなさまが人権について考える機会をお届けできていたなら幸いです。【渡辺】

宝同協だより「芽生え」編集委員

- 渡辺 和恵・平松 友紀・佐古 由紀恵・井上 智恵
- 松延 美穂・濱崎 桂伍・池澤 径子・和久 有彦
- 木元 淳一・石櫃 孝啓・吉野 大樹・美除 浩
- 清水 浩明